

大 会 規 定

- 1 チームの登録選手は、11名以上25名以内とする。（ベンチ入りは20名以内）
- 2 出場選手は、令和3年度6月末日現在連盟への登録済みの者に限る。
- 3 審査証は令和3年度発行のものとする。
- 4 オーダー表記入選手およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみがベンチに入ることができる。但し、各種登録証（チーム責任者、監督、コーチ）および審査証（選手）を携帯していない場合には、いかなる理由でもベンチに入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間に合った場合は、審査の上でベンチ入りができる。また、選手は試合終了までに間に合った場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5 組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6 監督（背番号60）・コーチ（背番号50）は選手と同じユニホームを着用すること。
- 7 試合開始時間60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表5部、投球回数記録副表3部および大会初戦の時は、直前大会報告書を大会本部に提出の上審査を受けなければならない。
- 8 オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンで決める。
- 9 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
- 10 試合方式など
 - ①各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間（決勝戦は2時間20分）を超えた場合、新しいイニングに入らない。（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - ②4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は4回表終了時）10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - ③7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回（決勝戦は10回）あるいは、試合開始から2時間（決勝戦は2時間20分）を超えては（どちらか早い方）新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）
- 11 ①投手は、1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。
連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし、4連投（連続する4日間）は禁止する。
②大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
③①～②を基本原則とするが、打者途中で制限球が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限球を超過した球数は投球にカウントしない。
④連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
⑤ボークは投球数としない。
⑥雨などのノーゲームになった場合は投球数にカウントする。
⑦2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが、指導者は十分考慮すること。
⑧ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は、連続する2日間投球した事とする。
また1試合のみ投球した場合は1日の投球数とする。
⑨日程の変更等で前大会と連続試合となる場合があるので、全てのチームは「直前大会参加状況報告書」を次大会主催者宛に提出しなければならない。
- 12 ①監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。（選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない）
②守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その選手は他の守備位置についても良いが、再び投手として登板することはできない。
③内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
④指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
- 13 1イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことが出来るが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
- 14 監督、コーチおよび選手は、審判の判定に対しての抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。この場合3分以内とする。

- 15 監督またはコーチが投手に指示などをする時は、マウンドのところで行うこと。
(ベンチから駆け足で)
- 16 2 塁走者やベースコーチなどがサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 17 ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 18 投手は走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 19 各チームは同色のヘルメット 7 個以上、捕手の規定防具[マスク、プロテクター、レガース、捕手用ヘルメット、スロートガード、(一体型捕手マスクは除く) ファールカップ] 2 組を備えること。
- 20 ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
- 21 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 22 グラウンドの都合でトーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
- 23 ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
- 24 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する処置は別に定め、運営委員の指示に従う。
- 25 試合前のシートノックは原則として 5 分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
試合前のシートノックは監督(60)、コーチ(50)、に限る。
- ※本大会の 1, 2 日目の試合前シートノックは行わない。**
- 26 試合前のトスバッティングで、スタンド方向に向かって打つことを厳禁とする。
- 27 本大会は、中学生投手の投球制限統一ガイドラインを適用します。
- 28 その他本規定に定めがない場合は、公益財団法人日本少年野球連盟の規定を準用する。

参 考

野球規則 7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】 わが国では、正式試合となった後の、ある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点で、その試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

【タイブレーク実施細則】

(1) 特別規則

- (イ) 延長 8 回あるいは試合開始時間から 2 時間を超えて (いずれか早い方)、決勝戦は 10 回あるいは 2 時間 20 分を超えて (いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
 - (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
 - (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

(1) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・規定により出塁した 3 走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃記録

- ・規定により出塁した 3 走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した 3 走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

以 上

野球用品は、すべて連盟指定業者のものを使用することが義務付けられています。